

教育長紹介



群馬県

ひらた ゆみ
平田 郁美

「子どもたちには、今日のような先の見えない予測困難な時代であるからなお一層、自分の頭で考え、自分で判断して、他の人と協力して新しい価値を創造していく力を培ってほしい。」と語る。

「県の総合計画で掲げた「始動人」の育成に向けて、デジタル技術を活用して一人ひとりに応じた個別最適な学びと、多様な人々と関わりながら問題解決を図る協働的な学びを実現する「教育イノベーション」を進め、群馬ならではの新しい学びを確立していきたい。」と意欲を示す。

共愛学園前橋国際大学教授、同学長、学校法人共愛学園副学園長を歴任し、本年4月に教育長に就任。62歳。理学博士。

(群馬県教育委員会事務局総務課長 内田 善規)



山梨県

みつ い たか お
三井 孝夫

「教育は子供たちの未来を拓く重要な仕事。本年度より小学校1年生に導入した25人学級を前提とする少人数教育の推進、ICT教育の推進、教員の働き方改革などにしっかりと取り組んで参りたい」と抱負を語る。

また、「教員の志望者が減っているが、本来、教員は夢のある責任の大きな仕事。働き方改革を進めながら、その魅力をしっかりと情報発信することにより、多くの方々に教員を目指してもらいたい」と力を込める。

昭和59年山梨県庁に入庁。農政部長、リニア交通局長などを歴任し、本年4月に教育長に就任。59歳。

(山梨県教育委員会事務局総務課長 藤原 鉄也)



大分県

おかもと てつ お
岡本 天津男

「大分県の全ての子どもたちが未来を切り拓く力と意欲を身に付けられるよう、学校・家庭・地域の協働や市町村など関係機関との連携を進め、全国に誇れる教育水準の達成を目指し取り組んでいきたい」と抱負を語る。

また「コロナ禍における学びの機会の確保が重要。併せて、学校における働き方改革の推進や、GIGAスクール構想の実現をはじめとする教育デジタル改革等に、スピード感を持って対応したい」と意欲を示す。

昭和61年大分県庁に入庁。企画振興部観光・地域局長、企画振興部長、企業局長などを歴任し、本年5月に教育長に就任。61歳。

(大分県教育庁教育改革・企画課長 重親 龍志)



宮崎県

くろき じゅんいちろう
黒木 淳一郎

「38年間の学校教育の経験を活かし、学校に足を運び、その声に耳を傾けながら、現場に寄り添った教育行政を心がけたい」と抱負を語る。

高校の教員時代に子ども達から学んだ「挑戦することの大切さ」と同時に「失敗することの大切さと、そこから立ち上がることの尊さ」を胸に、「宮崎県の教育施策の推進に粘り強く全力で取り組みたい」と意欲を示す。

昭和58年4月に宮崎県立高等学校教諭となり、宮崎西高等学校長兼宮崎西高等学校附属中学校長、県教育庁副教育長などを歴任し、本年4月に教育長に就任。61歳。

(宮崎県教育庁教育政策課長 川北 正文)